



サッカーから学んだ人生論

まな じんせいろん

川淵 三郎

かわぶち さぶろう

私がプレーしていた1960年代の日本は、プロ野球が人気でサッカーはマイナーなスポーツでした。古くから日本に伝わったスポーツにもかかわらず、人気の面でも技術的な面でもなかなかメジャーなスポーツにはならず、当時の私ですら、プロサッカー＝Jリーグが日本に誕生するとは思っていませんでした。

1960年、日本代表に選ばれた私は、合宿で初めてドイツのデュイスブルクのスポーツシュレを訪れました。デットマール・クラマー氏に会ったのはその時が初めてです。その後、東京オリンピックまでの4年間、私たちが代表選手は、コーチとなったクラマー氏にさまざまなことを学びました。それはサッカーの技術だけではなく、「人生の教訓」についても教わりました。

1964年の東京オリンピックでのこと。私たち日本代表は、世界の強豪アルゼンチンを相手に、奇跡とも言える逆転勝利をあげました。マスコミやサッカー関係者、同僚や友達など多くの人がお祝いにかけつけてくれました。その時、クラマーコーチは、「試合に勝ったものには友達が集まってくる。新しい友達もできる。しかし、本当に友人が必要なのは、敗れたときであり、敗れた方である。私はアルゼンチンを慰めに行く」と

言って、彼らの控え室に向かったのです。その時私たちはアルゼンチンに勝った嬉しさのあまり、彼の言葉や行動を気にもとめていませんでした。しかし、準々決勝でチェコに負けた時、彼は言ったのです。「君たちはよく戦った。しかしサッカーだけが人生ではない。今日はサッカーのことは全て忘れよう。負けてしまった今日、君たちのところにやってくる友達は少ないだろう。だが、今日の友達こそが君たちの本当の友達なのだ」と。

クラマー氏は、日本サッカーの父とも言われています。彼が優秀なコーチであったとしても人間的な魅力がなかったら、現在のように日本サッカーは発展しなかったらと思います。彼との出会い、そして彼が私たちに教えてくれた多くの事が、Jリーグを誕生させるエネルギーになったことは言うまでもありません。

スポーツは、感動や興奮だけでなく、友達との出会い、いたわりや助け合いの精神を育んでくれます。そういったことがスポーツを通じて得られる価値の高いものなのです。

Jリーグはこれからも、日本に、誰もが自由に気軽にスポーツを楽しめる環境を広げながら、フェアで魅力的なサッカーを提供していきたいと考えています。

(社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)チェアマン)

表紙エッセイ

サッカーから学んだ人生論

川淵三郎 (Jリーグ チェアマン)

After The Game

Saburo Kawabuchi (Chairperson, J League)

読者から

From Our Readers

教育実践レポート⑩理工系学科の日本語教育

日本語教育の古い歴史を持つ大学に
相応しいレベルを目指して

計 鋼

(中国・上海交通大学外国語学院日本語学部教授)

Japanese Language Teaching Around the World

⑩ Japanese Language Education in Natural Science

Strive to Attain the Proficiency Level in Conformity with the Status of a University with the Longest History in Japanese Education in China

Ji Gang (Professor, School of Foreign Language, Shanghai Jiao Tong University)

世界の日本語教材紹介

世界各国で制作された日本語教材

国際交流基金助成日本語教材

ハンガリー、ポーランド、ロシア、中国、

オーストラリア、トルコ、カナダ、米国

Japanese Language Teaching Materials Around the World

Japanese Language Teaching Materials Published in Various

Countries of the World

Published in Hungary, Poland, Russia, China, Australia, Turkey, Canada, U.S.A

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第1回 塾

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Intermediate and advanced

Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Private School (This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

日本語を研究する

第10回 言語心理学

ことばからこころをみる

大津由紀雄 (慶應義塾大学教授)

Research on the Japanese Language

Psycholinguistics

Language and Mind

Yukio Otsu (Professor, The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies)

初・中級 写真で見る日本人の生活

習い事 学校の外で学ぼう

Beginning and intermediate

Japanese Life As Seen in Photographs

Learning after School

初級 授業のヒント

日本語で歌いましょう

Beginning

Hints For Teaching the Japanese-Language

Let's Sing a Song in Japanese

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

Book Shelf : Introduction of New Titles

ニュース・編集部から

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

読者から

私はアジアとヨーロッパの境のウラル地方に位置しているロシアの小都市の予備・中学校の学生に日本語を教えながら、日本ってどんな国か、現代日本の日常生活・環境・習慣などの紹介に微力を尽くし、日本人に対しての友情感を育てなければならぬことを信じて、日本語国際センターに送っていただける『日本語教育通信』を使用しています。

特に「写真で見る日本人の生活」という項目に教え子達が興味を表しています。「本ばこ」で紹介されている参考書はこちらの店で入手できませんが、日本の親切な友達が私の頼みをきき、日本で購入して送ってくれます。

1995年の日本への旅で浦和市の立派なセンターを見学し、強い感動を受けました。先日は「1998年海外日本語教育機関調査」のアンケートに回答を記入しました。私が教えて

いる学校で他の教師が英語、仏語、独語を教えています。他の国からは調査されていません。日本語国際センターの好意に恵まれて感謝しております。ご親切どうもありがとうございました。

(ロシア Revda Medical College G. Schoukin)

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

表紙エッセイプロフィール

川淵三郎 (かわぶち さぶろう)

大学2年生のときに日本代表選手になり、卒業後古河電工入社、'64年東京五輪に出場。古河電工監督、日本代表監督等を経て、'88年に日本サッカーリーグ(JSL)の総務主事となる。日本サッカーのプロ化に奔走し、'91年のJリーグ発足時から、チェアマンを務める。

日本語教育の古い歴史を持つ大学に 相応しいレベルを目指して

中国
ちゅうごく

上海交通大学外国語学院
上海交通大学
日本語学部教授

計 鋼
けい こう

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 上海交通大学における日本語教育の歴史

『交通大学校史(1896-1949)』(上海教育出版社)によると、清の光緒25年(1899年)春、日本を通じてヨーロッパ文明を学ぶために、上海交通大学の前身の南洋公学に訳書院が置かれた。当時翻訳された書物はほとんど日本語の本だったという。この訳書院は後に商務書局と一つになって、商務印書館として今日まで活躍している。

また、清の光緒27年(1901年)春、役人養成のため、南洋公学に特班(特別クラス)が設けられた。蔡元培先生がその主任教師を務め、日本語コースを設け、自ら日本語の授業を担当した。史上有名な辛亥革命の中堅志士の多くがこの特班のメンバーであった。

さらに同年春、日本語の書物を大量に中国語に翻訳するニーズに応じて、南洋公学に東文学堂が設立された。東文学堂は日本語の通訳と留日予備生との養成を旨とし、日本語専攻の学生を40名募集し、一年ほど授業を続けた。のちに、上海交通大学と改称してからも、日本語教育が第二外国語として続けられてきた。そして、1972年中日両国国交正常化をきっかけに、当大学の日本語教育はさらに新しい段階に入った。

2 新しいシラバスとその主な内容

「大学日本語教育」とは、大学で選択科目としての第一外国語(以下「一外」と略す)と第二外国語(以下「二外」と略す)のことをいう。

大学日本語(一外)教育に適用する『大学日本語教学大綱(日本語非専攻本科用)』(以下『一外シラバス』と略す)は1989年6月に中国高等教育出版社によって出版された。4年後、1993年4月に、大学日本語(二外)教育に適用する『大学日本語(第二外国語)教学大綱(日本語非専攻本科用)』(以下『二外シラバス』と略す)も、同じ高等教育出版社によって出版された。(写真1)



写真1

『一外シラバス』と『二外シラバス』との主な内容は以下の通りである。

	大学日本語(一外)	大学日本語(二外)
対象	中学校と高校での日本語教育を終え、1,800語修得した者。	初心者
目的	良い読解力、ある程度の聴解力と翻訳力、初歩的な作文力と会話力を養成すること。	聴く、話す、読む、書く、訳すという5つの面において、基礎訓練を行うこと。
学習時間	4時間/週、60~70時間/学期。合わせて、4学期、240~280時間。(※4級レベルまで)	4時間/週、60~70時間/学期。合わせて、2学期、120~150時間。
語彙量	5,000語	1,200~1,500語
目標	良い読解力と翻訳力(和文中訳)、 大した間違いのない、短い文章を書く作文力。 簡単な日常会話をする聴解力と会話力。	簡単な日本語を聴く、話す、読む、書く能力。 辞書を調べながら簡単な和文中訳をする翻訳力。

* 中国教育省が実施する外国語試験。日本と違って、中国の4級はレベルが1級より上。

3 上海交通大学の日本語教育事情

中国の他の大学と同じように、当大学には大学日本語教育の一外コースと二外コースとがある。この二つのコースを利用して勉強している者の90%以上が理工科系の学部学生と大学院生である。

一外コースの学習者のほとんどが吉林省から来た者で、しかも朝鮮民族が圧倒的に多く、10人中9人がそうである。

る。毎年、10人前後の新入生が必ず入ってくる。二つの学年を合わせて、学習者は15~20人くらいである。講義は週4時間で、2学年(4学期)通して、合わせて280時間ほどある。

二外コースの場合は、一外コースより人数がはるかに多く、理工科系の学部学生の他に、文科系(特に英文科)の学生もいれば、博士コースや修士コースの大学院生もいる。人数の多い順から言えば、一番多いのは理工科系の大学院生で、1学年に日本語クラスが八つあり、学習者が約400人いる。次は理工科系の学部学生向けの日本語クラスで、1学年にクラスが二つが三つくらいあり、合わせて150~200人の出席者が顔を出す。それから英文科の学生のためのクラスで、2年生から4年生まで勉強しているの、六つのクラスで、合わせて100~200人いる。以上全部で、1学年に約700人程の学生が、二外コースを利用して勉強しているわけである。

ところが、理工科系の学習者は専攻科目やコンピュータの勉強、実験、研究などに追われて授業に出られないことがしばしばある。そういうわけで、最後まで日本語の勉強を続けていける者は学習者全体の50%~60%しかないと思われる。

授業時間といえば、大学院生向けの授業は週に6時間ずつ、フル2週間なので、合わせて1学期120時間である。学部学生向けの授業は週に4時間ずつ、平均して1学期18週間で講義するので、合わせて2学期の150時間くらいである。英文科向けの日本語授業は週4時間で平均して1学期16週間なので、合わせて6学期で320時間ほどあることになる。

また、大学日本語教育とは言えないけれども、ユニークな日本語教育も当大学で行われている。例えば、当大学の中日文化交流センターに置かれた日本語教室がその一つである。同センターには、日本人留学生向けの中国語教室と中国人学生向けの日本語教室とがある。1年間



写真2

の集中コースで、それぞれ10~15人前後の小さな教室だが、かなり効果が見られる、ユニークな教室である。

午前中は中日の学習者は二つの教室で別々に講義を受けるが、午後は一つの教室となって、かわるがわる中国語と日本語との会話ドリルを繰り返すのである。(写真2)

4 日本語教育スタッフと授業スタイル

当大学の日本語学部には日本語教師が現在7名いる。その内訳は、教授1名、助教授3名、講師2名、助手1名である。学期に一外のクラスが二つ、二外のクラスが大学院生向けの三つ~五つ(平均して四つ)、学部学生向けの二つ、英文科の学生向けの六つあって、全部で13~15くらいになる。教師1人に少なくとも二つのクラスが与えられているわけである。

授業の仕方を大きく分けてみると、一外スタイルと、理工科系向けの二外スタイルと、英文科向けの二外スタイルとの三つある。

4-1. 一外スタイル

一外コースの学生は、中学校と高校で6年間通して日本語を習ってきたので、ある意味では中級レベルに達していると言える。特に、朝鮮民族の学生にとっては、日本語の文法はもはや大した問題にはならない。ところがそれに対して、和文中訳とか、作文とか、会話とか、聴解などは大変難しいようである。即ち、文法はうまいが、手、口、耳はだめだというタイプなのだ。それは、朝鮮語の文法が日本語の文法に近いから、近道しようと朝鮮語の説明付のテキストや辞書を使って日本語の勉強をしてきたので、日本語を朝鮮語にはうまく訳せるが、中国語の共通語にはあまりうまく訳せなくなってしまったからだという。そういうわけで、教師はいろいろ工夫しながら、日本語を中国語の共通語にうまく訳す方法を指導してやらねばならない。そのために、時々学生に和文中訳をさせる。そのうえで、それぞれ自分の訳文を発表させ、比較させ、訳し方の良し悪しが分かるまで練習を続けていく。

一方、テキストの内容について、一番簡単なものから、会話の練習をさせたり、テープを聴かせたり、短い文章を書かせたりして、授業を進めていく。そのうちに、進歩が見られるようになっていく。

4-2. 理工科系向けの二外スタイル

理工科系二外コースを利用して学習者には学部学生と大学院生とがある。100人が100数十人も入れる大き



写真3
しゃしん

い教室を使うことがこのコースの特徴だと言える。みんなイロ八から勉強を始める。大人の外国語勉強だから、文法中心で進めるのが割と効果的なので、できるだけ少ない時間で文法を分かりやすく注入するのが一般的な教え方だと思う。(写真3)

学部学生の場合は、1学年(2学期)で150時間勉強することになっているので、週2回、2時間ずつというわけである。文法中心で、読解と和文中訳に力を入れるのが普通である。会話と聴解は時間の関係であまり要求されていないが、簡単な日常会話だけに付けさせる。

一方、大学院生の場合は、実験や研究に追われ、ゆっくりと勉強していく余裕などとてもない。それで、1学期120時間の学習時間となったのである。週2回だが、3時間ずつ授業を行う。無理だと思われがちだが、頭のいい者が多いからか、文法や言葉を覚えて自分の専門分野の文章や論文をうまく読みこなすことのできる者が多く見られる。

講義はイロ八からである。仮名と発音の勉強は2週間(週4時間)で済ませるが、仮名は数が多いから、2週間では平仮名や片仮名の書き方がなかなか覚えられない者が多いようだ。それにもかかわらず授業は進められていくが、そのうちに仮名とその書き方をしっかりと覚えられるようになるのが普通である。

授業は文法中心だから、判断文(だ、です、である)描写文(形容詞、形容動詞)存在文(ある、いる)叙述文(存在動詞以外の動詞)の順で進められていく。それから、授受関係文、受身文、使役文、敬語文など、助

動詞や補助動詞による特別な文の勉強をさせる。文法について説明しながら、学習者に文を作らせたり、本文を中国語に翻訳させたり、助詞のまるうめや助動詞の選択練習などをさせたりする。習った文法や言葉で中文和訳をする練習はいつも宿題とする。時には作文も書かせたりする。宿題や作文を直すことによって、学習者がまだはっきり理解していないところが分かる。その中から代表的なものを取り出し誤用例として、次の時間に学生と一緒に分析したりする。

4-3. 英文科向けの二外スタイル

英文科の学生は2年生から英語の勉強と同時に日本語の勉強を始める。イロ八からである。4年生の第2学期の前半まで講義するので、週4時間で、合わせて350時間余りあるわけである。これは、シラバスの要求をはるかに超える。

英文科の学生は日本語の勉強に大いに興味を示し、力を入れている。時には専攻の英語よりも熱心に勉強してくれる。就職のためにもう一カ国語を覚えようと頑張っているようである。

大人になってからの日本語の勉強なので、文法中心の勉強法は一日も早く日本語を身に付けさせるための近道だと言えよう。そういうわけで、文法にポイントを置いている。

一方、授業時間が多く、会話や聴解の練習にも時間を多く割いている。時々本文の内容を中心に会話のドリルをさせる。テープも聴かせる。授業の初めに日本語で数分間の自由発表をさせることもある。

5 使用教材

授業スタイルや学習対象によって教科書が決められる。

一外の場合は、『大学日語(1~4)』(顧明耀・徐祖瓊主編、高等教育出版社)と、『高級日語教程』(李士俊・馮建力等著、高等教育出版社)をテキストとして使用している。但し、『大学日語』の説明には文構造についての説明が多すぎるし、しかも専門レベルまで説明されているから、日本語学を専門にする気のない学習者にはあまり喜ばれていないようである。理屈ばかり学習するより、むしろ日本語そのものを活かす能力、例えば会話力や聴解力などを向上させるほうが喜ばしいらしい。だから条件を整えば、ビデオやマルチメディア教材を併せて使ってみたいと考えている。

理工科系向けの二外教室では、いろいろなテキストを使ってみたことがある。例えば、当大学で作成された

『日本語』（上海交通大学日語教研室）『日語（日本語非専攻用）』（上海外国語学院日語教研室編、上海訳文出版社）『現代日語 - あたらしい日本語』（吉田弥寿夫編、上海訳文出版社）『中日交流標準日本語』（中国人民教育出版社・日本光村図書出版株式会社共同編集）などである。これらのテキストはそれぞれ特徴を持つものばかりだが、必ずしも二外クラスに合うものではないようである。

『中日交流標準日本語』を例にしてみよう。このテキストは中国で一番広く用いられていて、評判のいい日本語教科書だが、4冊もあるから、授業時間の少ない二外クラスには向いていない。中途半端に終わってしまうのが一番大きな問題なのである。だから、今年（1998年9月～1999年7月）から、『大学日語（第二外語）教学大綱』の要求に応じて作成された『大学日語（第二外語）』（王詩榮・林璋編、高等教育出版社）を用いることになっている。

英文科向けの二外授業の場合は、『日語（日本語専攻用）』（上海外国語学院日語教研室編、上海訳文出版社）『新編日語』（周平・陳小芬編、上海外語教育出版社）『中日交流標準日本語』などが用いられたことがあるが、時間的に許されるので、『中日交流標準日本語』と『新編日語』が良いようである。日常会話の能力を向上させるのにも役立つし、日本語能力試験の受験勉強にも都合がいいから、これからも使っていきたいと思う。（写真4）



写真4
しゃしん

6 教育効果と問題点

一外コースの場合は、学習者は普通中国の日本語4級試験に合格する。また、日本の日本語能力試験の1級を受験しても、ほとんど合格している。それにもかかわらず、学生の会話力は劣っている。それは日本語で話す場所やチャンスがないからである。

二外コースの場合は、日本語についてのイロ八、特に基本的な文法は大体学習するので、学習者は簡単な文章、

または専門分野の文章などが読めるようになる。それに対して、作文力や会話力が劣っている。それは、ドリルの時間も、日本語を用いる場所も機会もないから、学習者がそれ以上進んで勉強する気がないからかと思われる。

7 今後の課題

日本語（一外・二外とも）の勉強をしている者は、日本語そのものを習おうとするというより、むしろ日本語を交流の手段として身に付けようとしているのだと思う。だから、文章が読めるといっただけではまだ不十分だ。21世紀に入ろうとしている今日、人間同士の交流または相互理解が最も重要視されてくるだろう。そういうわけで、いかに会話力を向上させるかが、今後の課題となると思う。

一方、教育手段が日進月歩になりつつある今日、中国の大学での日本語教育手段（日本語専攻の場合を除いて）はほとんど20年か30年前のままだと言ってもいいようである。「大学日本語」（一外・二外とも）は、あまり重要視されていないのが現状である。授業時間が少ない上に、教育手段も随分遅れている。黒板1つ、チョーク1本のケースがよく見られる。もちろん、伝統的な教授法や教育手段がダメだと言うわけではない。ここで言いたいのは、聴く能力と話す能力とは文法の勉強と違って、先生の説明だけ聞いて身に付くものではないから、リアルな雰囲気が必要なのである。だから、テープとか、ビデオとか、さらにコンピュータ、インターネット、マルチメディア教材などを利用して、教育効果を高めなければならぬ。

当大学は今年度から日本語教育をさらに新しいレベルにしようと図っている。日本語専攻コースの再生に拍車をかけていると同時に、大学日本語教育手段の改善にも力を入れようとしている。そのために、何よりもまず、日本語教育スタッフ全員のレベルアップに取り組むべく、教育現場での研修と日本での研修の機会を作りたい。一方、教育機器や音声資料などの援助申請も考えている。

いずれにしても、日本語教育においては、中国で一歩古い歴史を持つ大学に相応しい高いレベルを目指して、努力していきたいと考えている。

* 文中の固有名詞は日本語の音読みに統一しました。

世界の 日本語教材

紹介

世界各国で制作された日本語教材

国際交流基金助成日本語教材

データ凡例

- 1 著者、編者
- 2 発行元
- 3 使用言語
- 4 定価 (予定)

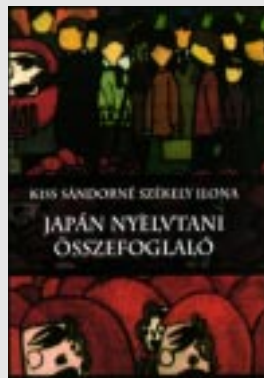
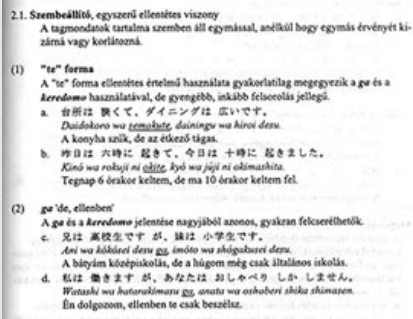
世界各国の各機関では、学習者の目的に合わせていろいろな日本語教材が作られています。国際交流基金の「日本語教材制作助成」プログラムは、これらの教材制作を促進するために、制作経費の一部を助成しています。平成9年度（1997年度）は、14カ国22機関の企画が助成され、教材が出版されました。今回は、これらの中から8カ国の教材を紹介します。

*『日本語教育通信』第29号では韓国、オーストラリア、マレーシア、カナダ、米国の教材を、第30号では、中国、メキシコ、ブラジル、イタリア、ドイツ、ブルガリアの教材を紹介しました（平成8年度助成）。ホームページをご覧ください。

文法解説書

ハンガリー

日本語文法 (Japán Nyelvtani Összefoglaló)



1 Kiss Sandorné Székely Ilona

2 Tarogato Publishers

(1021 Budapest, Tarogato ut 10 Hungary / TEL・FAX: +36 1 200 7429)

3 ハンガリー語

4 2,000Ft

日本語の基礎的な文法説明書。例文は日本語とローマ字表記を併記。動詞、複合動詞、助詞、接頭辞・接尾辞、助詞相当語句等の巻末リスト付き。

問題集

ポーランド

初級日本語文法練習問題集 (Praktycznykurs gramatyki językajapońskiego)



1 アダム・ミツキエヴィチ大学東洋・バルト学

科日本語教師グループ

2 Adam Mickiewicz University Press

(61 734 Poznan Nowowiejskiego 55 Poland / TEL・FAX: +48 61 852 77 01)

3 ポーランド語、日本語

4 37zt

初級の文法・句型133項目を取り上げた問題集。項目ごとに例文（ポーランド語併記）があり、基本的な書き換え練習から状況作文まで豊富な練習問題を含む。全文ルビ付き、巻末には語彙リストがある。

教科書 (テープ付き) ロシア
 きょう か しょ
おもしろい日本語
 に ほん ご
 (, Japanese for Fun)



- ①
- ② 「今日の日本」社
 Joint - stock company "Japan Today"
 (Petrovka 14, 103031, Moscow Russia / TEL: +7
 95 200 44 22 FAX: +7 95 923 92 13)
- ③ ロシア語
- ④ 30Rbl (海外向US \$ 5)
 かいがいむけ

短期間で仮名と簡単な日常会話をマスターする
 たん き かん か な かんたん にちじょうかいわ
 ことを目的とした初級教科書。ひらがな、カタカ
 もくてき しょきゅうきょう かしよ
 ナのイラストカード、カセットテープ付き。

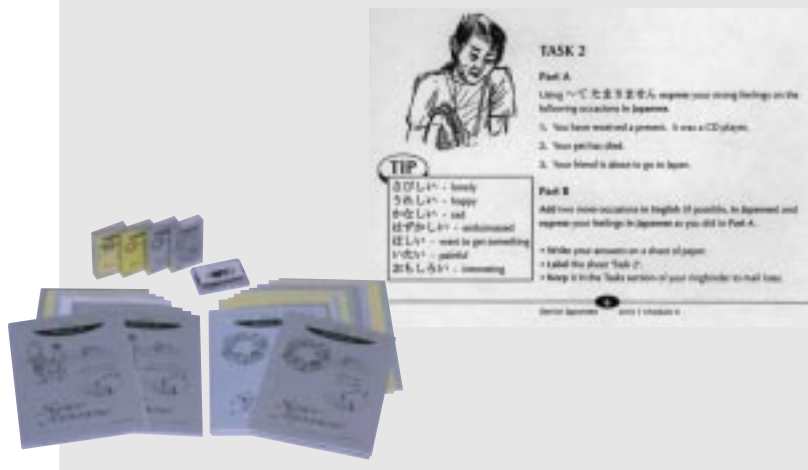
教科書 中国
 きょう か しょ ちゅうごく
全日制普通高級中学教科書 日本語 第一冊、第二冊
 ぜん にち せい ぶ つう こうきゅうちゅうがくきょう かしよ に ほん ご だいいっさつ だいに さつ
 (全日制普通高級中学教科書 日語第一冊、第二冊)
 ぜん にち せい ぶ つう こうきゅうちゅうがくきょう かしよ にち くだいいっさつ だいに さつ



- ① 唐 磊 他
 どう せき ほか
- ② 人民教育出版社 (100009 中華人民共和国
 じんみんきょういっくしゅうばんしや
 北京市沙灘後街55号 / TEL: +86 10 6403 5745
 FAX: +86 10 6401 0370)
- ③ 中国語
 ちゅうごくご
- ④ 第一冊 18 40元、第二冊 15 20元
 だいいっさつ げん だいに さつ げん

高校生用教科書 (教師用指導書付き) 中学校
 こうこうせいようきょう かしよ きょうしつじょうしゆ しどうしよつ ちゅうがっこう
 での学習を基礎に4技能の訓練を行い、コミュニ
 がくしゅう きそ きのう くんれん おこな
 ケーション力の習得を目指す。本文、会話、練習、
 りよく しゅうとく めざ ほんぶん かいわ れんしゅう
 日本事情についてのコラムからなる。
 にほんじじょう
 第三冊制作中。
 だいさんさつせいさくちゅう

教科書 (テープ付き) オーストラリア
 きょう か しょ
Senior Japanese for Distance Education



- ① Queensland LOTE Center
- ② Queensland LOTE Center
 (P.O. Box 3663 South Brisbane QLD 4101
 Australia / TEL: +61 7 3360 7500 FAX: +61 7
 3360 7599)
- ③ 英語
 えいご
- ④ 要問合わせ
 ようとあ

高校生用通信教育教材。オーストラリアの日本
 こうこうせいようつうしんきょういくきょうざい
 語教科書『未来』に基づいたトピック別モジュ
 こきょう かしよ みらい もと
 ル構成。カセットテープ付き。
 こうせい

言語心理学

—— ことばからころをみる ——

慶應義塾大学教授 大津由紀雄

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけています。今回のテーマは言語心理学（ことばからころをみる）です。

1. 言語心理学とその方法

言語心理学 (psycholinguistics) は、言語という窓をとおして、ころ (mind) の本質を探ろうとする研究分野ですが、研究者によって、その対象も、方法も、かなりのばらつきがあります。今回は、生成文法 (generative grammar) と呼ばれる言語理論と不可分の関係にある言語心理学について解説します。なお、ここでいう「ころ」とは、人間 (ときには、人間以外の動物やコンピュータを考へることもあります) と外界の間の相互作用を支える内的メカニズムのことを意味します。例えば、母語の音声を耳にしたとき、私たちは知覚された音声に何らかの処理を加えて、その意味するところを理解します。その「何らかの処理」を行う内的なメカニズム、それがころです。言語に関連したころの動きはこのほかにいろいろあります。

言語心理学の主な研究分野として、次のものがあります。

- (1) 言語獲得 (language acquisition)
 - a. 第一言語獲得 (L1 acquisition)
 - b. 第二言語獲得 (L2 acquisition)
- (2) 言語使用 (language use)
 - a. 言語理解 (language comprehension)
 - b. 言語産出 (language production)

生成文法では、日本語文法や英文法などの個別文法 (あるいは、I 言語、II は internalized 内蔵された、の意) をそれぞれの話者 (native speakers) の脳に内蔵された知識と定義します。個別文法は普遍性と個別性を持っていますが、個別性といっても、でたらめにばらついていくわけではなく、一定の枠をはめられています。生成文法は個別文法の持つ、この普遍性と個別性を明らかにしようとしています。その際、個別文法に反映する普遍性および許容される個別性を生物学的理由による (つまり、遺伝的に決定された) ものと捉え、その理論 (普遍文法 Uni-

versal Grammar, UG) を構築することを重要な目標とします。

現在、多くの研究者の受け入れる考え方は普遍文法に対する原理とパラメータのアプローチ (Principles-and-Parameters approach to UG) と呼ばれています。そのアプローチでは、普遍文法は有限個の原理から成り、その原理の中には可変部 (パラメータ) を含むものがあると考えます。可変部を含む原理については、子どもが生後外界から取り込む情報、すなわち、経験をもとにその値を設定するのです。これは、買ってきたときのパソコンの設定をいろいろと変えて、じぶんの好みに合った機械に仕立てていくのに似ています。

生成文法の最大の特徴は、今述べたように、文法の普遍性を言語の生得性の反映とみなす点にあります。したがって、生成文法研究では、言語理論研究と言語獲得研究は不可分の関係にあるのです。

これまで述べたところは第一言語 (すなわち、母語) 獲得についてですが、第二言語獲得もそれと同質の過程 (つまり、普遍文法のパラメータ値の設定) と考えてよいのかどうかという興味深い問題があります。

また、脳に内蔵される知識として捉えられた文法は、言語理解や言語産出 (発話) の過程などで (他の知識とともに) 使用されます。こうした過程で、文法のどの部分がどのように使用されるのかに関する研究を言語使用、または言語運用 (linguistic performance) の研究と呼びます。

言語使用研究のなかでは、統語解析 (parsing) の研究が最も進んでおり、興味深い仮説が数多く提案されています。統語解析とは、言語理解において、入力文に対応する語列にその統語構造を付与する過程をいいます。言語産出に関する研究が遅れているのは、その入力がかきりとしなないため、それに係る諸要因を統制した実験が立案しにくいからです。現在のところ、言い間違い (speech errors) の分析を基盤とした研究が中心となっています。

2. 言語心理学の研究動向

言語獲得については、言語獲得に普遍文法と経験のいずれもが関与していることを示す研究が1970年代の後半から現れ始めました。1980年代に入ると、経験の主要な役割をパラメータ値の設定であることを示す研究が数多く発表されました。

1970年代に入ってから、普遍文法の発現に成熟 (maturation) が関与しているかという問題にも注目が集まっています。また、言語獲得の生得的要因は普遍文法のように言語に特化したものであるのかを再検討する動きもあります。

言語使用については、やはり統語解析の研究が盛んです。特に、知識としての文法と解析の関係について、さまざまな考え方と興味深い実験結果が数多く発表されています。

言語獲得や統語解析に関する研究は、生成文法研究に極小主義 (minimalism) が導入されたことによって、新たな展開を見せ始めています。極小主義は (非常に乱暴に言えば) 言語と他の認知機構との関連を探りながら、言語の本質に迫ることができるかどうかを探るための研究プログラムです。

さて、これまで述べてきたところは心理レベルにおける言語の研究ですが、近年の生成文法研究の進展と脳の高次機能 (言語、意識、思考など) への関心の高まりを背景に、言語の脳科学が注目を集めています。特に、PET やfMRIなどの機能イメージングの技法 (さまざまな工夫によって、脳の活性部位を特定する技法) を利用した研究が盛んです。現在のところ、これらの技法を利用して、言語に関する脳内活動の関連部位を特定することを目指した研究が多くなっています。しかし、まだ用いられる装置の時間解像度あるいは空間解像度がそれほど高くないこと、また、得られた資料を解釈するための理論が欠如していることなどの理由で、本格的な研究は今後に待たなくてはなりません。

3. 言語心理学と外国語教育

言語心理学は、言語理論と同様に基礎研究であるので、それが言語教育 (母語教育であれ、外国語教育であれ) に対して、どのような意味合いを持つかは射程に含まれていません。したがって、言語心理学の研究成果を外国語教育に安易に「応用」するという試みは慎まなくてはなりません。

外国語教育ともっとも直接的に関連するのは第二言語獲得研究です。例えば、第一言語獲得については、これこれの言語形式は非文法的であるという否定証拠 (negative evidence) (例えば、赤い花の意味での「赤い花」

は非文法的であるという情報) は必要ではないと考えられています。つまり、周囲のひとから、それは非文法的であるということは何らかの形で指摘されなくても、子どもは普遍文法および関連のメカニズムを使って、最終的にはそれが非文法的となるように日本語文法を構築するというわけです。では、第二言語獲得の場合にはどうでしょうか。否定証拠はやはり不要であるのか、あるいは、必要なのか。この問いに関する議論はまだ決着がつけられていませんが、その解答が外国語教育に対して重要な示唆を与えることは言うまでもありません。

4. 言語心理学の基本文献

言語心理学を理解するためには、生成文法を正しく理解することが必要です。それは容易なことではありませんが、まず、次の文献によって、その基本的な考え方を理解するとよいでしょう。

[1] Noam Chomsky (1988) *Language and problems of knowledge: the Managua Lectures*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

次の文献には、言語心理学の分かりやすい解説とそれが人間のこころの問題とどう関連するかについての検討が満載されています。

[2] Steven Pinker (1994) *The language instinct: how the mind creates language*. New York: William Morrow.

幾分古くなってしまいましたが、第一言語獲得、第二言語獲得、言語使用についての教科書としては、次の三著が良書です。

[3] Helen Goodluck (1991) *Language acquisition: a linguistic introduction*. Oxford: Blackwell.

[4] Lydia White (1989) *Universal Grammar and second language acquisition*. Amsterdam: John Benjamins.

[5] Alan Garnham (1985) *Psycholinguistics: central topics*. London: Methuen.

日本語で書かれた文献としては、次のものがあります。[8]は言語心理学プロパーの解説書ではありませんが、中高生に言語研究のおもしろさを伝えようとしたものです。

[6] 大津由紀雄 (編著) (1995)

『認知心理学3: 言語』東京: 東京大学出版会

[7] 大津由紀雄ら (共編著) (近刊)

『言語の科学10: 言語の獲得と喪失』東京: 岩波書店

[8] 大津由紀雄 (1996)

『探検! ことばの世界』東京: NHK出版



「習い事 - 学校の外で学ぼう - 」

なら こと がっ こう そと まな

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初等中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「日常生活シリーズ」を使って、日本人が学校以外のところで学ぶ、「習い事」について取り上げます。

習い事って？

なら こと

習い事とは、学校以外で趣味、芸術、スポーツなどを習う活動で、「おけいごと」とも言われます。日本人は習い事をするのが好きで、小学校に行く前の子どもからお年寄りまで、いろいろな習い事をして楽しんでいます。

習い事を教えるための大きな学校もあり、「カルチャースクール」と呼ばれます。

なら こと おし おお がっこう よ



英会話

えい かい わ

習い事として英語を学ぶ人は、たいへん多いです。この写真のような、話すこと、聞くことを中心とした英語の学習は「英会話」と呼ばれます。英会話専門の学校もたくさんあります。

がっこう





料理

りょうり

習い事の中で、料理が一番さかんなものの一つです。
 最近、料理と並んで、デザート（甘いお菓子）を作る教室もたくさんあります。そういうコースではお菓子の作り方の他に、おいしい紅茶のいれ方や、お客さんを招待するときのマナーなども教えています。



水泳

すいえい えい

水泳は年齢や性別と関係なく、みんなが楽しめるので、スポーツの習い事の中では一番人気があります。水泳は学校でも教えますが、学校以外で水泳を習っている子どももたくさんいます。

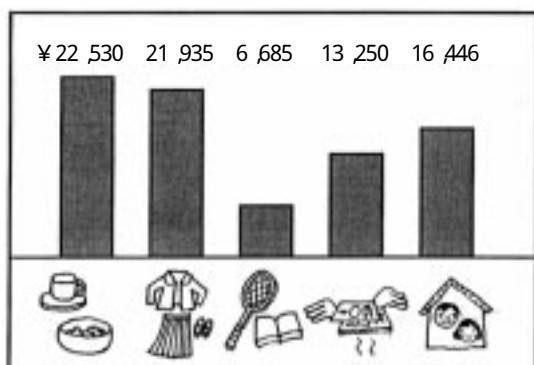
習い事としての水泳は「スイミング」と言います。スイミングは専門の「スイミングスクール」やスポーツクラブで習うことが多いです。



生け花

いばな

お茶や書道、生け花など日本の伝統的な習い事も人気を集めています。このような習い事は技術を身につけられるだけでなく、作法（マナー）や日本文化の全体を学ぶことができるので、人気があります。



【参考：若い女性の支出内容の平均】

(三和銀行「独身サラリーマン、OLの生活実態調査」より。)

首都圏に住む35歳以下のOL560人を対象に実施)

月給：168,729円のうち

外での食事そとに使うお金けし：22,530円
 ファッションファッションに使うお金けし：21,935円
 習い事おぼいじや本ほんに使うお金けし：6,685円
 ローンローンを返すかへお金けし：13,250円
 家いえに入れるいお金けし：16,446円



「大きなくりの木の下で」(作者不詳)

1. 大きなくりの木の下で あなたとわたし
 なかよく遊びましょう 大きなくりの木の下で
 (2、3番省略)

おお き な く り の き の し た で
 あ な た と わ た し
 な か よ く あ そ び ま し ゃう
 おお き な く り の き の し た で

歌は飽きずに何度もくりかえすことができるので、覚えにくい語彙や文法の規則を覚えるのにも利用できます。こうした例の代表的なものは助数詞かもしれませんが、助数詞を取り上げた歌として、「一本でもにんじん」「十人のインディアン」などがあります。

また、文法の規則を替え歌にしたものとして、1グループの動詞(五段動詞)のて形の音便のルールを紹介したものがああります。

「て形の歌」 詞：作者不詳

(“Oh, My Clementine”のメロディで歌う)

- みなさん、みなさん、てformを覚えましょう
 う、つ、る、って、ぶ、む、ぬ、んで、く、いて、
 く、いで、す、して

解説：辞書形が「う」「つ」「る」で終わる動詞のて形は「～って」(「買って」「立って」「帰って」など)になる。「ぶ」「む」「ぬ」で終わる動詞の場合は「～んで」(「呼んで」「飲んで」「死んで」など)になるといようなルール。同じようにます形からて形を作るように歌詞を変えることもできる。

(2) 中上級の場合

中上級では、歌の内容や背景を理解させることによって、日本事情に結びつけることができるでしょう。

「瀬戸の花嫁」を例にすると、「何についての歌ですか」

「瀬戸の花嫁」 詞：山上路夫

1. 瀬戸は日暮れて 夕波小波
 あなたの島へ お嫁にゆくの
 若いと誰もが 心配するけれど
 愛があるから だいじょうぶなの
 だんだん畑と さよならするのよ
 幼い弟 行くなと泣いた
 男だったら 泣いたりせずに
 父さん母さん だいじにしてね
 (2、3番省略)

「歌っているのはどんな人ですか」「若いとは何歳くらいですか」「なぜ心配するのですか」「だんだん畑とはどんなものだと思いますか」……と

質問して学習者に歌の内容について考えさせます。そして、日本人の考え方や感じ方などについてクラスで話し合うことができます。

(3) 日本事情と歌

どのようなレベルのクラスでも、日本の四季や年中行事に合わせて、その時々歌を紹介するのも楽しいでしょう。また、写真パネルなどを見せながらいっしょに日本事情の説明をするとさらに理解が深まるでしょう。歌の内容を自国の文化や習慣と比べることもできます。

四季や自然を歌った歌は、「さくらさくら」「春」「うみ」「夏の思い出」「もみじ」「虫のこえ」「雪」「たこたこあがれ」「四季の歌」などたくさんあります。

年中行事を紹介するのにいい歌は、「お正月」「うれしいひな祭り」「こいのぼり」「たなばたさま」などがあります。

参考文献

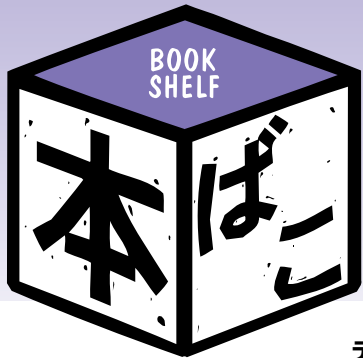
1. ストンフィールド企画・編集(1997)『ザ・カラオケ The Karaoke Japan's Best Hits』大村書店
2. 寺内弘子(1992)『歌って覚える日本語』凡人社
3. 松山祐士編(1998)『学園愛唱歌集』ドレミ楽譜出版社
4. ビデオ『Let's Learn Japanese by KARAOKE』(NHKインターナショナル)

歌詞のホームページへの掲載については、(株)日本音楽著作権協会への報告を行っております。

紙面の都合で、このコーナーでは紹介した歌の歌詞や楽譜を全てのせることができませんでした。どんな歌が知りたい場合は、参考文献やテープなどで調べてください。他の日本語の歌でも、ここで紹介したアイデアを使うことができますので、ぜひためしてみてください。

また「て形の歌」の作者や作られた時期についてご存知の方は情報をお寄せいただけたらと思います。

このコーナーの担当者：北村武士、八田直美(日本語国際センター専任講師)



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 1著者 2出版社 3刊行年月 4ISBN 5ページ数 6定価 7その他

上級の総合的なコミュニケーション能力の習得をめざす

『中級から上級への日本語』



データ

1鎌田修、榎本綾子、富山佳子、宮谷敦美、山本真知子 2The Japan Times
(〒108 0023 東京都港区芝浦4 5 4 / TEL .03 3453 2013 FAX .03 3453 8023) 31998年 5月 44 7890
0918 15220ページ 62 940円 7別冊
単語リスト・解説書付

生の素材を使用した教材

この教材は中級の学習者を対象とし、総合的な日本語能力を上級に引き上げることを目標としています。ここでは、中級を「パターン化した日常の言語活動ができる」レベル、上級を「予期していない場面での複雑なコミュニケーションができる」レベルとしています。

この教材の特色は、①プロフィシエンシー（proficiency：外国語運用能力）は、「どのような言語生活が、どのように、どれだけできるかである」という考え方

に基づいて書かれていること、②エッセイ、記事、アンケート調査のデータなどの、生の素材を使用していること、③自己紹介、買い物、部屋探し、就職など、学習者が日本で生活すると出会うと考えられる言語生活から各ユニットのテーマを選んでいること、④読み物を素材にしているが、「読む」作業を、「話し合う」「説明する」「報告する」などの表現をする活動につないで、総合的な運用能力が伸ばせるように図られていることです。生の素材を使っているので、読み物にふりがなはありませんが、別冊に読みがなつきの「単語リスト」があります。

理解から表現へ、3段階の課題

各ユニットには、「読む前に」、「読んでみよう」、「読んだあとで」という3段階の課題と、「重要表現」、「文法・語彙練習」という練習問題があります。「読む前に」では、ユニットのトピック

クと関連した小さい読み物について話し合う課題などが与えられます。「読んでみよう」には、中心になるテキストと、内容の理解を確認するための設問、自分の意見をまとめたり述べたりする課題があります。「読んだあとで」では、資料を見て話し合いをしたり、書いてまとめたりすること、調査など教室外でのプロジェクト的な作業をすることなどが求められています。

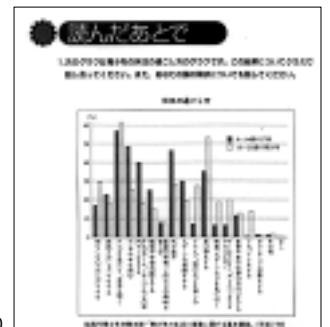
この教材では生の素材を使用しているため、語彙や文型、漢字に制限がありません。また、課題も、決まった解答があるものではありません。このため、学習者のレベル、関心、かけられる時間などに応じた具体的な目標設定と、作業や練習をどこまで行うかについての選択が重要となるでしょう。



P. 156 - 157



P. 154



P. 160

身近なトピックを取りあげたモジュール型初級教材 『モジュールで学ぶよくわかる日本語①②③』



データ

①コーベニ澤子、高屋敷真人、本間直子 **②**アルク (〒168 0064 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL 03 3323 1001 FAX 03 3327 5211) **③**1998年4月15日 **④**4 87234 781 1 **⑤**127ページ **⑥**1,575円 **⑦**別冊解説書付、1、2巻は既刊。別売カセットテープ1,365円 **⑧**1巻 **⑨**1993年7月1日 **⑩**4 87234 230 **⑪**115ページ **⑫**1,325円 **⑬**別冊解説書付、別売カセットテープ1,155円 **⑭**2巻 **⑮**1993年12月20日 **⑯**4 87234 288 **⑰**120ページ **⑱**1,325円 **⑲**別冊解説書付、別売カセットテープ1,155円 (1、2巻とも **⑳** ⑲は3巻と同じ)

若い人向けの楽しい教材

この教材は、日本語を50～60時間程度学習した中学生や高校生が、楽しみながら日本語を学んでいけるように作られたものです。もともとはオーストラリアの学生用に開発されたものですが、世界各国の若い学習者の人にとっても役に立つ教材です。

組み合わせ自由なモジュール型教材

この教材は、3冊で15のトピック(話題)中心のモジュールから成っています。モジュールというのは、それぞれが独立した単位で、モジュール型教材とは、一定の順序に沿って学習していく教材とは違って、必要に応じて、どのような順序でも使える教材です。ですから、学習者のレベルやコースの特性に合わせて自由に組み合わせ使用することができます。

親しみやすい身近なトピック

15のトピックの内容は、次のように

なっています。

第1冊「わたしの家族」「スポーツ・レジャー・しゅみ」「買い物」「食べ物・飲み物」「学校生活」

第2冊「わたしの一日」「季節と年中行事」「わたしの国へようこそ」「日本へ行って」「わたしのしょうらいと日本語の勉強」

第3冊「旅行に行こう」「留学生活」「ホームステイの経験」「お世話になりました」「地球をまろう!」

これらのトピックの中から好きなものを選ぶとよいでしょう。

4技能を考えたバランスのよい構成

各モジュールの構成について見てみましょう。各課は、①トピックの場面を導くための絵、②そのトピックに関するコミュニケーション能力を養うためのアクティビティ、③聞き取りタスク、④読解タスク(モジュールによっては含まれていない場合もある)、⑤ダイアログ(モデル会話)⑥文型や文法事項の定着を確認するためのエクササイズ(練習問題)⑦文法事項のまとめの順になっています。

「アクティビティ」では、実際のコミュニ



P.69 トピックの導入

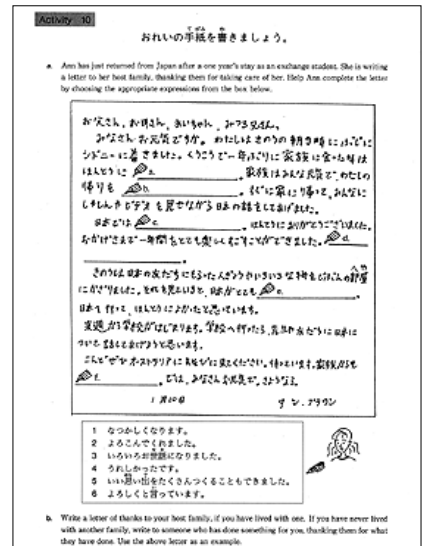
ケーションを考えた練習と、それに必要な文型練習の両方がバランスよく盛り込まれています。「聞き取りタスク」では、自然な会話から必要な情報を得ることができるように工夫されています。

「読解タスク」では、手紙文や日記形式の教材がたくさんありますから、書く活動につなげていくこともできます。

このような練習の中から、みなさんのクラスに応じて、必要なものを組み合わせさせていってください。



P.73 アクティビティ(話す)



P.81 アクティビティ(書く)

*すでに出版されている「モジュールで学ぶよくわかる日本語①②」に続いて、このたび③が発行されました。

p.20～23は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

向井園子、藤長かある、木谷直之、磯村一弘、高偉建、木山登茂子

NEWS NEWS NEWS ニュース

1998年度日本語能力試験

昨年12月6日(日)、1998年度の日本語能力試験が、国際交流基金、(財)日本国際教育協会の共催で実施されました。

この試験は、日本国内外において、原則として日本語を母語としない人を対象に、習得した日本語の能力を客観的に測定し、その能力を認定することを目的としています。1984年から実施されており、今回で15回目を迎えました。

今回は国外33の国・地域の75都市、日本国内6地域で実施され、総計152,660人(昨年度比約24%増)の応募者がありました。

各級の応募者数については次のとおりです。

	級別	1998年度 応募者数(人)	1997年度 応募者数(人)	伸び率 前年度比
国 外	1級	26,522	20,620	28.6%
	2級	32,225	24,885	29.5
	3級	33,925	25,621	32.4
	4級	27,076	21,739	24.6
	小計	119,748	92,865	28.9
国 内	1級	19,413	17,839	8.8
	2級	6,418	6,209	3.4
	3級	4,443	3,833	15.9
	4級	2,638	2,214	19.2
	小計	32,912	30,095	9.4
合 計		152,660	122,960	24.2

○ 編集部から ○

「ニュース」欄でお伝えしたとおり、1998年度の日本語能力試験の応募者が昨年度に比べ約3万人(約24%)増え、15万人を超えました。

日本の不況、東南アジア地域の経済危機などから、当初は応募者の減少も心配されたのですが、結果は意外にも(?)大幅増となりました。

どんな外国語を勉強するかは、その時々々の社会情勢などにより変動もあるようですが、『日本語教育通信』では、日本語を学ぶ人達が少しでも興味深く、そして長く勉強を続ける気持ちになる授業・講義の役に立てるよう、努力したいと

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

なお、1999年度の日本語能力試験は12月5日(日)に実施される予定です。

試験実施の詳細については、7月頃下記までお問い合わせください。

国外:

国際交流基金関西国際センター試験課

〒598 0093 大阪府泉南郡田尻町

りんくうポート北3 14

TEL: 0724 90 2603

FAX: 0724 90 2803

E-Mail: jlptinfo@jpf.go.jp

国内:

財団法人日本国際教育協会

事業部日本語・統一試験課

〒153 8503 東京都目黒区駒場4 5 29

TEL: 03 5454 5215

FAX: 03 5454 5235

『衛星通信会議』催される - 日本・タイ・マレーシアを結んで -

昨年10月、東京小金井の郵政省通信総合研究所の衛星通信施設を利用して、日本、タイ、マレーシアの3カ所を結んだ衛星通信会議が行われました。

この衛星通信会議は、郵政省のポストパートナーズ計画の一環として行われたもので、参加者はモニターに映ったお互いの顔を見ながら話し合いを進めました。

日本語国際センターが衛星通信を使った実験を行うのは、1997年に続いてこれが2回目になります。今回は、1994年度の長期研修修了生と浦和と各国の専任講師も参加して、日本語授業の録画ビデオをもとに、教授法についての意見交換を行いました。参加者は初めのうちは緊張していた様子でしたが、すぐに同じ教室で研修を受けていた頃に戻って、活発に話し合いが行われました。

『日本語教育通信』アンケートへの 協力をお願い

『日本語教育通信』編集部では、今回海外の読者を対象に、『日本語教育通信』に関するアンケート用紙を同封いたしました。

アンケート用紙は郵便(アンケート表下の住所欄を切り取って封筒にお貼りください)またはFAX(+81 48 830 1588)で日本語国際センター情報交流課までお送りいただくか、電子メール(jfnck@jpf.go.jp)で回答を送っていただいても結構です。

よりよい紙面作りの参考にさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

『日本語教育通信』 第33号

1999年1月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,
Saitama 336-0002, Japan)
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588
E-Mail jfnck@jpf.go.jp
編集協力
財団法人 国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)
© 1999 by The Japan Foundation

(表紙イラスト: 村井宗二)